

授 業 科目名	【 G 】 教育心理学		区 分		開講年次	【 G 】 2 【 H 】 1	単位数	【 G 】 2 【 H 】 2
科目区分	教育の基礎的理解に関する科目							
授業形態	対面授業							
担当形態	単 独		【 G 】 教員の免許状取得のための必修科目 【 H 】 教員の免許状取得のための必修科目					
施行規則に定める科目区分又は事項等			幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程					
サブ タイトル	発達理論と学習理論					担当者	田中 將之	
授業概要	【概要】	・心理学の各領域（発達、学習、知能、パーソナリティ、欲求と適応）の基礎的知識を、心理教育的観点から修得する。 ・ロール・プレイング・グループワークなどの活動を通して実践的感性を養い、人間心理への教育的理解の深化を図る。						
	【到達目標】	・心身の発達に関する代表的な理論を踏まえ、教育における発達理解の意義を理解している。 ・様々な学習の形態や概念及びその過程を説明する代表的理論の基礎を理解している。						
履修条件	教育原理、教職論、単位認定者が前提となる。							
アクティブ ラーニングの 方法	【－】	事前学習型	【－】	反転授業	【－】	調査学習	【－】	フィールドワーク
	【－】	双方向アンケート	【○】	グループワーク	【○】	対話・議論型授業	【－】	ロールプレイ
	【－】	プレゼンテーション	【－】	模擬授業	【－】	PBL	【－】	その他
ディプロマ・ ポリシーとの 関連性	DP(ディプロマ・ポリシー)①		－ (当てはまらない)					
	DP(ディプロマ・ポリシー)②		－ (当てはまらない)					
	DP(ディプロマ・ポリシー)③		◎ (よく当てはまる)					
	DP(ディプロマ・ポリシー)④		－ (当てはまらない)					
他科目との 関連性	教育原理、教職論，生徒指導論							
教科書	特に、指定しない。							
参考書	河村茂雄・武蔵由佳(編) 教育心理学の理論と実際 図書文化							
評価方法	授業中に指示するレポート課題・テスト(70%)、受講意欲・グループワーク等を行う際の姿勢・態度(30%)で評価する。なお、予告をせずにノートの提出を求めることがあり、提出の有無・内容も評価に入れるものとする。							
フィードバック 方法	毎時の評価について、特に良好なものについては、レフレクションカードに良い面を記入して返却する。レポート提出期間経過後に、評価ポイントを学生に伝える。テストについては評価の重要点を説明する。							
評価基準	S・A:授業内容をよく理解しており、応用力もある、B:授業内容を理解している、C:最低 限の基礎力を備えている、D:基礎力が不足している、E:基礎力が著しく不足している、F:評価不能 欠席時数過多やテストを受けていない場合はF評定とする。							

授 業	【 G 】	教育心理学	区 分	開講年次	【 G 】 2	単位数	【 G 】 2
科目名	【 H 】	教育心理学			【 H 】 1		【 H 】 2
授業回数	授業内容						
1	教育心理学の概要, 発達とは何か。						
	予 習： 学説を踏まえて発達概念を理解する。			復 習： 授業のポイントを確認しておく。			
2	児童・生徒の心身の発達の過程Ⅰ エリクソンの発達理論①						
	予 習： 学説を踏まえて発達概念を理解する。			復 習： 乳幼児期から青年期における認知に関する知識を整理する。			
3	児童・生徒の心身の発達の過程Ⅱ エリクソンの発達理論② － ライフサイクル論 －						
	予 習： ライフサイクル論について予習をしておく。			復 習： 乳幼児期から青年期における認知に関する知識を整理する。			
4	児童・生徒の心身の発達の過程Ⅲ ピアジェの発達理論						
	予 習： 学説を踏まえて発達理論を理解する。			復 習： 発達に関する諸理論についての知識を整理する。			
5	発達に於ける遺伝と環境Ⅰ 遺伝の影響						
	予 習： 遺伝説について予習をしておく。			復 習： 発達に於ける遺伝の影響について知識を整理する。			
6	発達に於ける遺伝と環境Ⅱ 環境の影響						
	予 習： ワトソンの行動主義理論について予習をしておく。			復 習： 発達に於ける環境(経験)の影響について知識を整理する。			
7	欲求と防衛機制 防衛機制とは何か						
	予 習： 防衛機制の理論について予習をしておく。			復 習： 授業のポイントを確認しておく。			
8	学習理論Ⅰ 連合理論とは何か						
	予 習： 学習における連合理論について予習をしておく。			復 習： 著名な心理学者の学説を確認する。			
9	学習理論Ⅱ 認知理論とは何か						
	予 習： 学習における認知理論について予習をしておく。			復 習： 著名な心理学者の学説を確認する。			
10	学習理論Ⅲ 社会的学習理論						
	予 習： バンデューラの学説について予習をしておく。			復 習： 性格とは何かを確認する。			
11	性格・気質とはⅠ 性格の特性論						
	予 習： 性格の特性論について調べる。			復 習： 特性論とは何か, その特徴を明らかにする。			
12	性格・気質とはⅡ 性格の類型論						
	予 習： ユングの学説について調べる。			復 習： ユングの類型論について確認する。			
13	性格・気質とはⅢ 性格検査						
	予 習： 性格検査にはどのような方法があるのか予習しておく。			復 習： 性格検査の内容を整理し, 理解をしておく。			
14	親と子の絆 愛着理論						
	予 習： ボウルビィの愛着理論について予習をしておく。			復 習： 愛着理論が持つ意味を整理し, 理解をしておく。			
15	授業のまとめ テスト						
	予 習： これまでの授業の総復習をしておく			復 習： テストの出題内容について再度整理をしておく。			
その他	心理学処理論についてはかなり専門化するので、積極的な受講態度を要求する。アクティブラーニング型授業を行う場合, 主体的な参加が求められる。授業の順序, 内容については学生の反応を見極め, 変更を行う場合がある。						
	授業ごとの予習・復習時間は、各120分程度を目安としてください。						